



特定非営利活動法人 アイユーゴー通信 第 22 号

〒590-0452 大阪府泉南郡熊取町山の手台 1-22-10

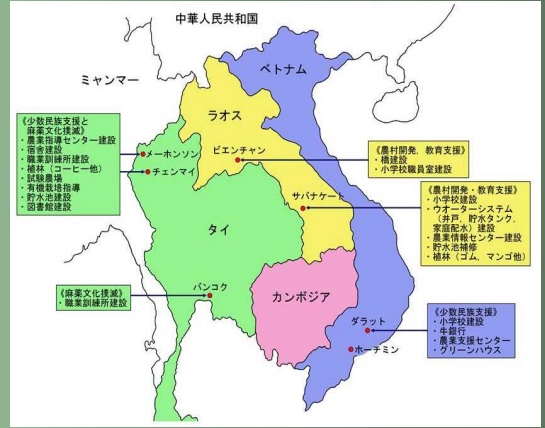
TEL / FAX 072-452-5680

e-mail : aiyugo1015@gmail.com

homepage : <http://aiyugo.fc2web.com>

目 次

- (1) マダガスカル特集 Ⅲ
 - ・熊取町の救急車はがんばっている！
 - ・健康に強い村づくりは着々と進んでいる！
 - ・村の子供たちのための小学校建設
 - ・以前は草ばかり、今は樹木も増え、だから鳥も増えてきた
- (2) 私たちは自然を忘れた？
- (3) マダガスカルのフィハウナナの鳥たち 第 3 回
- (4) 平成 25 (2013) 年度収支決算報告
- (5) 平成 26 (2014) 年度事業計画
- (6) 協力のお願い



(1) マダガスカル特集 Ⅲ

熊取町の救急車は頑張っている！



[2007年10月25日 朝日新聞] 熊取町消防本部で約10年間使われた救急車が今月、東アフリカ(の)共和国へ寄贈された。東部ムラマンガ市の病院で使われる。31日に現地で贈呈式がある。同町の特定医療法人三和会(永山一郎会長)が中古自転車や医療機器を贈ったのが最初の縁で、同国の大統領夫妻が05年5月の来日時、町を訪れ、医療支援を要請した。町は、国の排ガス規制強化に伴って使えなくなったディーゼル車1台を寄贈することにした。

熊取町に事務所を置く国際交流 NGO アイユーゴーが輸送の実務を担当し、経費は外務省の支援事業の適用を受けてまかなった。贈呈式に出席する NGO 代表理事の新田幸夫さんは「町民の1人として、救急車が現地の人役に立つことを願っています」と話した。<見出し；「救急車 第2の人生 熊取→マダガスカル」> (情報 INO:4253 情報提供：泉州ドットコム) 注：(の)編集者入る。

今年の3月にマダガスカルを訪ねると、現地の協力団体 NGO サクラの仲間から、タナ(マダガスカルの首都・アンタナナリボの略)で熊取町の救急車を見た聞いた。そこで、サクラメンバーたちとムラマンガ市を訪ねた。

新しい市長は Rasolofomjatovo Ezchiel 氏だ。救急車は市が総合病院ムラマンガ病院内(ベッド数 100 以上)で管理している。



左から ラライナ氏 ハジャ氏 市長 新田理事長

使用し始めて6年が経つが、修理しつつ利用している。首都タナまで3時間かけて重病者を搬送することができる。搬送費用はガソリン代のみを患者が支払う。残念なのは、貧しい人はたとえ重病であっても、搬送費用を考えると救急車を利用できない現実だ。市長は、「病院の職員3名くらいを対象として器具の使い方を指導してほしい。」と繰り返した。



救急車の中

タンカーの具合を確認

現地の人達が、救急車の高度な技術を要する車内の器具を駆使したいということは、マダガスカルの人達に高度な医療技術を習得したいという大きな刺激を与えたのは間違いない

健康に強い村づくりは着々と！



井戸を3基建造した。利用者は、それぞれ、第1井戸は400人、第2井戸は800人、第3井戸は600人である。公共の井戸として使用するための管理として使用時間を決めた。午前6時から8時までと、午後2時から5時までの1日2回とした。それ以外の時間は、川の水を使うことになる。使用料はバケツ1杯に2円弱とし、井戸の管理費となる。



第1井戸(J1)



第2井戸(J2)



第3井戸(J3)

村人に聞いた。

- ・「川の水は、何が入っているかわからず、不安だった。」
- ・「これからは病気になるなくて済むだろう。」
- ・「沸かして飲む人が増えたかもしれない。」
- ・以前は、沸かしても無駄だという気があった。



井戸について語る村人

(井戸建設は、(公財)日本国際協力財団様から助成していただきました。)

村の子供たちのための小学校建設



アンボヒダヴァ村小学校

1960年に建設した校舎は崩壊の危機があり、1992年に2教室が再建され、今年2教室を新設した。

- ・全校生徒数：293名 ・5年生制度
 - ・教師数：5名 (村に居住)
 - ・3学期制：1学期：10/1-12/20、2学期：1/9-2/15
3学期：4/22-7/20 管理は村が行う。
 - ・就業時間：7:30-13:00 午後は中学校受験準備時間
 - ・中学校受験の合格者：毎年約90%、その他は落第生。
- 学校ができると生徒が勤勉になり、欠席が少なくなる。教師の関心は、やはり給料だ。給与が安すぎて、教育へのモチベーションが低いそうだ。



専門家の指示に従い、村のお父さんたちが協力して作り始めた。



小学校の様子



(小学校建設は、(財)ひろしま・祈りの石国際教育交流財団様の助成していただきました。)

以前は草ばかり、今は樹木が増えている。だから鳥も増えてきた!

マダガスカルの高原地帯における土砂崩れの災害を防ぐための植樹による整備事業(フィハウナナ村)

草原地帯での森林再生に向けた活動だ。住民が希望する樹木を選定し、主にアカシア、オレンジ、コーヒーなどを植えた。平原特有の強風による根返りや幹折れを防ぐ工夫(ユニット方式)をしたところもあり、傾斜地では、作業道、あるいは防火帯を造成し、自然火災の拡大防止を考慮した。植樹現場では、表土層を確保し、保水力を高めるためにえんどう豆やコーンを植え、虫防止にトマトをとところどころに植えてみた。



村人と話し合いの様子



左から、村代表者 ハジャ氏 新田理事長 加藤副理事長

広大な草原地帯の中で、住民とともに植樹を推進し、ごく一部といえども、徐々に緑化が進んでいる。村の集會場で、住民に今年目標などを掲げ、植樹の意義を共有することを目的として話し合った。



傾斜地の整備が進む



傾斜地の作業道



2015年2月には小学生と植林します。彼らとともに数十年後を想像(創造)したい。

(2) 私たちは自然を忘れた!

新田理事長

日本のある村人が、都会から来た人たちと山村を散歩した。するとほとんどの人があまりに無知なことに驚いたそうだ。樹木や鳥の名前やさえずる声などを知らないまま生活している、見たことがないというのではない、ただ気づかないのだと。私たちは一生の間、樹木と鳥に囲まれ



ているのに、私たちの観察力があまりに貧弱なので知る機会を失っている。観察する力の養成と、さらに自然に対する畏敬の念をもつことが、自然とともに生きることができるのではないかと。自然災害が多くあるなかでふとそう思った。

(3) マダガスカルのフィアウナナの鳥たち(第3回)



ハジャニリナ ラクトゥマナ氏
マダガスカル アンタナナリブ
大学理学研究科 動物学教室教授。専門は生態学・鳥類学。
Madabirds プロジェクト役員
およびNGO サクラのメンバーでもある。

フィハウナナは、マダガスカルの首都アンタナナリブ(南緯18°36', 東経47°12')から北西におよそ60km離れた場所にあり、標高1,600mほどのマダガスカル高地にあるアナラマンガ地区に含まれます。季節は大きく2つに分けられ、11月から4月は蒸し暑い雨季、5月から10月は涼しい乾季に当たります。植生の大部分は草原で、灌木が茂るサバンナが点在しています。この地域に住む人々は主に農業を営んでおり、わずかな谷間で稲作を行っています。キャッサバやトウモロコシ、パイナップルも作っていますが、収穫量は決して多くありません。年間降水量は1,395mm、年間平均気温は18.8°Cです(アンタナナリブ基地調べ)。

この地域からは少なくとも18種の昼行性の鳥類が報告されており、比較的高い割合(33%)で汎世界的に分布する種が含まれています。一方で、ちらっとみただけで「マダガスカル〜」で始まる名前の種が多いことがお分かりいただけると思います。しかしながら、マダガスカルの他地域と同じく、環境破壊が一刻と進行しており、鳥類をはじめとする野生動物の保全が急務となっています。



フィハウナナ村の環境保全事業

このことから、私はこの地域の生物多様性を保全するために、ランドスケープの回復に取り組むことを提案します。この地域のランドスケープは、成長の早い在来種であるタピアの木、コミカンソウ科の *Uapaca bogeri*、マチン科の *Anthocleista madagascariensis* や、近年導入されたプランテーション植物であるコーヒーやオレンジなどを含みます。樹木や背の低い灌木は鳥に止まり木や営巣、採餌を行う場所として利用されます。水面に浮かぶ浮遊性植物や岸辺を覆う植生は、カモなど水鳥の生存にとってなくてはならないもので

す。フィハウナナのマネージメント計画によって生み出される多様な植生は、高い生物多様性をランドスケープレベルで保護します。実際、果物のプランテーションの導入と同時に、数種の鳥 (Madagascar turtle dove マダガスカルキジバト、Madagascar Brush warbler マダガスカルマヨリなど) がこの地域に戻ってきたことが知られています。

(4)平成25(2014)年度収支決算報告

2013年度 特定非営利活動に係る事業会計収支計算書 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)	
科 目	決算額 (単位 円)
I 収入の部	
1. 会費収入	
法人会費	90,000
正会員	436,000
賛助会員	41,420
2. 募金・寄付金収入	
一般寄付	852,420
3. 自主事業収入	0
4. 助成金収入	
ひろしま祈りの石	1,500,000
国土緑化推進機構	1,459,000
日本国際協力団体	1,500,000
6. 雑収入	0
収入合計 (A)	5,878,840
II 支出の部	
1. 事業費	
資機材費	4,132,515
現地移動費	660,848
現地事業運営費	131,715
スタッフ・専門家派遣経費	563,991
2. 管理費	
事務所管理費	390,584
交通費	93,370
宿泊費	18,328
会議費	13,725
経常支出合計	6,005,076
経常収支差額	-126,236
III その他の資金収入の部	
1. 受取利息	
普通預金利息	59
2. その他の事業会計からの繰入	0
その他資金収入合計	59
IV その他資金支出の部	
その他資金支出金額	0
当期収支差額	-126,177
前期繰越収支差額	-324,302
次期繰り越し収支差額	-450,479

(5)平成25(2014)年度事業計画

平成26(2013)年度事業計画 特定非営利活動法人 アイユゴ	
1) マダガスカル共和国(アボヒダヴァ村)	生活環境改善事業 井戸を2基造成しトイレの建設衛生状況の改善を図りつつ、村づくりの基礎を形成する事業
2) マダガスカル共和国(フィハウナナ)	環境保護事業 高原地帯における土砂崩れの災害を防ぐための植樹による整備事業
3) タイ王国メーホーソン県パンマパー地区	経済活動の活性化を図る活動: コーヒーの事業化に向けた支援事業
4) 日本の国際協力プロジェクトとの連携事業	
5) 自主事業 (現地の自立のための事業)	現地の自立のための事業 本会の事業地の検証と、文化・技術を通じた交流事業 (タイ・ベトナム・ラオス・マダガスカル)

(6)ラオス井戸建設のご協力をお願い

ある団体の方たちが昨夏現地に入り、ラオスの村人と井戸建設実施の約束をしましたが、日本での最終的な協力が得られず、現在に至っています。人件費その他の費用を含んで1基30万円になります。1基を建造する場合は、その井戸に日本語と英語で個人またはグループの名前を入れさせていただきます。今後共日本とラオスの相互扶助の気持ちを大切にしたいと考え、さらに村人と気持ちを一つにできればとも思っています。

<井戸建設 (1基15万円) ならびに現地活動費(15万円) 計30万>

アイユゴの住所が変わりました

新しい事務所

住所：大阪府泉南郡熊取町山の手台1丁目22番10号

TEL/FAX 072-452-5680、email: aivugo1015@gmail.com

また、snittaskmj0715@yahoo.co.jp も利用できます。

今後ともよろしくお願いいたします。

【感謝】

(特活) アイユゴ通信をご覧いただき、誠にありがとうございます。私たちは、自らの知識・技術・経験と奉仕の精神を持って、協力を必要とする人たちの自立を目指した開発援助を通じて、その地の文化を尊重理解し、草の根の友好親善と、自らの人間としての価値を高めることを目的とし活動します。貧しい人たちが、困った人たちがいれば、その人たちのそばに行ってみませんか。そして、何かできることがあれば、自分でしてみませんか。皆様のご参加・ご協力を心からお待ちしております。HP: <http://aivugo.fc2web.com>

【振込先】

【特定非営利活動法人 アイユゴ 理事長 新田幸夫】

三井住友銀行 阿倍野支店 : 7,479,470

ゆうちょ銀行 : 00930-9-144252

発行：新田幸夫 編集：加藤鐘三 印刷：(株)江口印刷